

大牟田市立吉野小学校

1 本校のESDの特徴

吉野小学校は、稲荷山の麓の自然豊かな地域にある。一方で、九州新幹線の開通と共に、道路の整備や住宅の建設が進められ、地域の環境も変わっていきこうとしている。そこで、吉野小学校では、住みよい吉野の町になるように、自分たちにできることはないかという子どもの視点からESDに取り組んでいる。

本校では、研究主題を「持続可能な社会作りについて自分の考えを持ち、行動する児童の育成」とし、現在「国際理解」「エネルギー環境」「いのち」の3つのテーマで、学び合い高め合う吉野っ子を目指し、生活科・総合的な学習の時間を中心に単元の構成や1単位時間の学習活動を工夫をして研究を進めている。また、地域の「ひと・もの・こと」を活用した教材開発を行い、地域とのつながりを理解し、関わりを深める子どもの姿を求め、実践を積み重ねている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

- (1) 1年 「むかしからのあそびにちょうせん」「せかいのあそび」「あきとおともだち」「目ざせ しごめいじん 大さくせん」
- (2) 2年 「吉野のすてき見つけ隊」「あそび大すき あつまれ」「みんな大きくなったね」
- (3) 3年 「町の工夫見つけ隊」「吉野の自然調べ隊」「昔からの手作りおやつ調べ隊」
- (4) 4年 「生き生きビオトープ大作戦」「住みよい吉野のまちづくり大作戦」「2分の1成人式をしよう」
- (5) 5年 「さくらプロジェクト」「守ろう環境！隈川・白銀川探検隊」「未来の吉野っ子を招待しよう」
- (6) 6年 「届けよう平和への願い」「大牟田の未来をえがこう」「プロフェッショナルに学ぼう」

3 特徴的な活動事例

<5年生 総合的な学習の時間 単元名「吉野小桜プロジェクト」(30時間)>

(1) 目標

吉野小学校のシンボルである桜の意味について、先輩や地域の方の思いを通して自分の考えをつくり、これからの吉野小学校や吉野の地域が美しくあり続けるために友達と関わりながら働きかけるとともに、活動内容の交流を通して学校や地域への誇りを持つことができる。(相互性、多様性、責任性、連携性)

(2) 実践の展開

①桜プロジェクトを受け継ごう

- ア) 「吉野小学校の桜」についてのイメージマップを描き、吉野の桜についてのイメージを知る。
- イ) 6年生の思いと自分たちの桜に対する思いを比較し、課題をつかむ。
 - ・イメージマップ

②吉野の桜について調べよう

- ア) 課題に応じて情報収集を行う。
 - ・校章に込められた思い ・開校当時の様子、思い
 - ・桜とはどんな植物
- イ) 調べたことを整理し、吉野の「桜」についての考えを高め合う。



【開校当時の話を聞く】

・友達との交流 ・地域の方との交流

③自分たちにできることを考え、働きかけていこう。

- ア) 高め合った考えをもとに、実践計画についての計画を立てる。
- イ) 友達と協力しながら工夫して実践活動に取り組む。
- ウ) 活動の振り返りを行う。
- エ) 友達と協力して継続して実践活動に取り組む。



【「桜で繋ぐ絆プロジェクト」の方々との交流】

④未来に残していきたい思いや願いを話し合い、発信していこう。

- ア) 吉野の桜の素晴らしさを地域・市内の学校、国内のユネスコスクールに発信する。

(3) 子どもたちの様子

昨年度の5年生から受け継いだ「桜プロジェクト」をさらに発展させていきたいと意欲的に取り組み、桜を通して地域の方々の願いに触れ、桜で満開の美しい街を取り戻したいと主体的に取り組むことができた。昨年度、5年生の活動を応援しようと立ち上げられた「桜で繋ぐ 地域の絆プロジェクト」がさらに発展し、さらに多くの地域の方が関わってくださるようになった。子どもたちと話し合いながら、お互いの立場からできることに取り組み、明るく元気な美しい町にしていこうとなった。

桜に込められた思いや願いを受け取った子どもたちは、夏祭りでアピールしたり、清掃活動・あいさつ運動に取り



【夏祭りのオブジェ】



【地域の方と共に植樹】

組んだり意欲的に活動することができた。さらに、地域の方の応援もあり、校内に2本と地域の公園に3本の桜の苗木を植樹することができた。子どもたちは、「自分たちの夢に一步近づいた。」と喜んでいた。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・地域の人や自然との「つながり」「かかわり」を大切にした体験活動・G Tとの交流、情報の発信の場の工夫を行ってきたことで、自然の仕組みや地域の方の思いや願いに触れ、地域のことを誇りに思い、よりよいまちになるように自分なりに考えて働きかけることができる子どもたちが増えてきた。
- ・子どもたちの継続した活動を通して、桜で繋ぐ絆プロジェクトをはじめ、子どもたちの活動を気持ちよく支援して下さったり、応援して下さる方が増えてきた。そのおかげで、子どもたちも地域の温かさを実感する機会も増えてきた。

○課題

- ・総合的な学習の時間における内容の学年間における系統を整理し、一貫性のあるESDを実践していくこと。
- ・今後も次の世代へと引き継ぎ、継続した活動になるための教員間の引き継ぎ及び地域連携の維持をしていくこと。